

# すみやかに臨時国会を開き、政治の進むべき道の議論を

## 京都・緊急街頭でのこくた国対委員長への訴え

8月29日、党京都府委員会が行った緊急街頭宣伝（四條烏丸交差点）でのこくた恵二・党国対委員長・衆院議員の訴えを紹介します。

みなさんこんにちは。紹介いただいた日本共産党国会対策委員長のこくた恵二です。今日は、井上哲士参議院議員、倉林明子参議院議員、京都にかかわりのある3国会議員で訴えに上がりました(写真)。それは、みなさんもお承知の通り、大きく政局が動いたからであります。こうした時、政治をどう見て、どう動かし、どうしていくのか、みなさんと一緒に考えたいと訴えに上がりました。

安倍さんは、持病で責任を果たすことができないということで辞任表明されました。考えますと、1993年、中選挙区時代の最後の選挙が行われたその年に、私も安倍さんも同期の初当選ということで一緒に国会に上がった身でもあります。であるがゆえに、一日も早い病状の回復を希望しているところでもあります。

### 安倍政治の7年8ヵ月とは何だったのか 新自由主義の政治でいいのかが問われ始めた

同時に、今日の各メディアは「安倍晋三自民・公明政権の7年8ヵ月とは何だったのか」ということをそれぞれ特集しています。そして今が「転換の時だ」ということで、「朝日」や「毎日」、東京新聞も報じています。つまり「今の政治をどうするのか」ということが問われています。

そこで、先ほどお二方からも話があったように、今



みなさんが直接感じられておられる問題は、コロナ対策で今の安倍政権が何をやったのかということです。前の年に比べ収入が半分に減った世帯に30万円を配るという提案が初めあり、閣議決定されました。これは、野党と共産党の提案で閣議決定を覆し、日本に住むすべての人に10万円の特別定額給付金が配られることになった。みなさん「アベノマスク」してはりますか。みなさんしておられないでしょう。小さくて、遅くて、役に立たない。安倍政権が打った対策は、すべてが後手後手、的外れだったのではないのでしょうか。

そして、いまコロナの事態に直面し、「今までの政治がはたして良かったのか」ということも、みなさんが考え始めたのではないのでしょうか。

例えば日本の公衆衛生の体制がこれほどまでに脆弱だったのか。1990年には850あった保健所が今では469カ所に減っており、働く人も3万6000人いたものが2万9000人に減っている。これほどまで公衆衛生の体制が弱くなっている。全国の公立私立病院連盟の邊見理事長は、「医療には余裕が必要。ところが今の医療の状況はベッドがすべて埋まらなければ診療報酬が加算されない。また、地方自治体が病院に支援することは無駄だということがまかり通っている。これが新自由主義だ」と厳しく批判しておられます。

### 20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 46(2020.8.29)

ですから、私たちの暮らしの中にはびこってきた、安倍さんが7年8ヵ月行ってきた新自由主義の政治、儲かればいい—もともと「自助・共助・公助」と言っていたけれども、結局「自助」しか言わない、こうした考え方がいいのかということが、いよいよ問われ始めたのではないのでしょうか。

### **安倍自民党政治の根本的転換こそ 「3つの政治転換」で新しい政治を**

そこで、私たちは、こうした安倍自民党政治を根本から転換するということを訴えています。そのためには議論が必要です。国会を開きなさいということを私たちは言っています。なぜなら、6月17日、国会を閉じて以来、閉会中の審議は野党の要求にもとづいて確かに行われ、大きな役割を果たしました。しかし、総理は一度も出てきませんでした。

新しい総理大臣が選ばれたなら、速やかに臨時国会を開会し、代表質問、そして予算委員会を開催し、どういう方向に日本の政治を進めるのかと議論することが必要です。

その上で、私たちは3つの方向での政治転換を呼び掛けています。一つは憲法にもとづいて立憲主義、平和主義、民主主義を確立する。二つ目に、安倍政権が行ってきた格差拡大の政治を改めて、格差を是正し、暮らし第一の政治を行うこと、三つ目に多様性を尊重し、個人の尊厳を最も大切にする政治を実現すること。こうした「3つの政治転換」の方向を、日本共産党と市民と野党の共闘は、政治の根本に据えて全力を尽くしたいと考えているところです。

同時に、新自由主義の根本からの転換が必要である。このことも含めた新しい政治の流れを作っていくわけではありませんか。私どもはそういう立場で努力したいと考えています。来るべき総選挙、比例代表はこのことを訴える日本共産党を伸ばしていただきたい。京都一区では私、こくた恵二を押し上げていただきたい。このことによって京都から政治の流れを変える、そのために奮闘することをお誓いして、私の訴えとさせていただきます。